

まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。
三好市役所 秘書人事課 ☎ 72-7646



一晩限りのお化け屋敷で悲鳴

暑い夏の夜を楽しく過ごしてもらおうと8月1日、妖怪屋敷夏まつりが道の駅大歩危で開催されました。3回目を迎えた今回、2階会議室が一晩限りのお化け屋敷に変身。真っ暗の中、懐中電灯を手に進むお化け屋敷にはさまざまな仕掛けが用意されていて、突然現れるお化けに、子どもたちの泣き声や悲鳴が会場に響いていました。

また、各種夜店や妖怪の紙芝居、大歩危妖怪×クイズなどもあり、夏の涼を求める観光客や家族連れらでにぎわいました。

避難所生活を体験 山城小で防災キャンプ

楽しみながら災害時の対応や過ごし方を学んでもらおうと8月1日、避難所生活を体験する1泊2日の防災キャンプが山城小学校で開催されました。参加した山城地区の小学生30人は、体育館で自宅から学校までの避難経路を確認するマップを作製したり、非常食のアルファ米を使って炊き込みごはんを作ったりしました。その後、自分たちの寝泊まりする避難所づくりに挑戦。班ごとに段ボールとガムテープなどを使って個性的な部屋を完成させました。翌日には成果発表が行われ防災意識を高める貴重な夏休みの体験となりました。



落合集落で高低差世界一の流しそうめん

東祖谷の落合集落で7月19日、全長3250メートル、高低差265メートルの流しそうめんに挑戦するイベントが開催されました。標高815メートルの古民家「浮生」から1束85グラムのそうめんが流されスタート。コース沿いでは、参加者が「目指せ世界一」と書いた横断幕を掲げたり「頑張れそうめん」と声援を送ったりしながら、そうめんの行方を見守りました。投入から75分後、ついにゴールに到着したそうめんを子どもたちがぎゅでキャッチすると会場からは大きな歓声が上がりました。世界流しそうめん協会からは、実行委員会に世界一の認定証が贈られました。三好市ではギネス記録を申請中です。

サイエンススクールで科学の不思議さを体感

自然の素晴らしさと科学の楽しさや不思議さを体験してもらおうと7月28日、サイエンスサマースクールが王地小学校で開催され、市内の小学生や保護者約190人が参加しました。午前中には植物を採集し新聞紙を使って標本作りに挑戦。午後からは徳島大の出前科学教室が行われ、用意された7セグLEDやマイコン・配線ボードを使っていろいろな数字をデジタルで表示する方法を学びました。細かな配線をつなぐ作業に悪戦苦闘しながらもLEDで数字を点灯させると子どもたちからは歓声と笑顔がこぼれていました。



池田中で第5回水泳フェス



水に親しみ楽しみながら競技力の向上を図ろうと7月26日、今年5回目を迎えたみよし水泳フェスティバルが池田中学校プールで開催されました。小学生から大人まで幅広い選手が参加し、背泳ぎや平泳ぎ、自由型、ビート板競争などのタイムレースが行われました。記録更新を目指し頑張った結果、32個の大会新記録が生まれ、選手たちには表彰状とメダルが贈られました。競技の後には、水球の試合や宝探しがあり、水に親しむ有意義な大会となりました。

認知症ケア実践講座を開催



認知症の症状や対応について、より深く知っていただこうと7月13日、認知症ケア実践講座が池田総合体育館で行われ、80人が参加しました。実践講座では、「家族が認知症になったら」をテーマに特定医療法人恵済会ゆうあいホスピタル理事長の坂本哲郎さんによる講演会が行われ、もの忘れと認知症の違いや認知症の中核症状や周辺症状、認知症の人に接する時の視点や支援など具体的な家族の対処法が説明され、参加者は真剣に耳を傾けていました。

もしもの時の介護予防



「災害や介護支援～大切な人を守るために、今できること～」と題した講演会が7月8日、いきいきサロン山城で行われました。講師は、徳島県立三好病院長の住友正幸さんと「チームみよし」のメンバーである病院職員の黒田耕司さん。DMAT（災害派遣医療チーム）として派遣された東日本大震災などの経験をもとに、災害に備える方法が紹介されました。参加者には今日からすぐできることとして寝室に靴を置くこと。明日からできることは、自分と家族を守る準備をすることだと訴えました。



園児が観光客に地元のお茶をプレゼント

保育園児らに人との関わりを深めてもらおうと7月24日、上名保育園児7人が大歩危駅で観光客にお茶のプレゼントを行いました。手渡されたお茶は5月に上名地区で園児らが心をこめて摘んだ新茶です。この日大歩危駅を訪れた観光客を前に、ティーパック3袋がセットになったお茶30個を「私たちが作ったお茶です。飲んでください」と大きな声で元気よく観光客にプレゼント。受け取った観光客も「ありがとう。飲むのが楽しみ。また大歩危に来たい」とにっこりほほ笑んでいました。